

■ 本調査の特徴

この調査の特徴は以下のようにまとめられます。

①時代による変化がわかる。

時系列で調査することを目的として企画されており、調査項目は毎回の調査で使用できるよう配慮している。本報告書では6年前と比較して、子どもたちの学習の実態がどう変わったのか（あるいは変わらなかったのか）という点に触れている。

②小・中・高校の学習実態が比較できる。

小・中・高校という学校間でも時系列の変化が把握できるよう、共通の調査項目を設定している。

※報告書は小学生版・中学生版・高校生版の3冊に分かれています。小・中・高校の変化については各報告書に共通版（第3章）を掲載しています。

③幅広い学習実態が把握できる。

学習の好き嫌い、学習行動、学習方法といった表面的な事象にとどまらず、学習への姿勢、環境、日常生活の中での学習といった、幅広い意味での学習の実態を把握できる。

④調査対象の選定に配慮している。

日本の児童・生徒の調査結果となるべく調査校を大都市、地方都市、郡部の3地域から選定した。対象学年は、もっとも安定していると思われる小5、中2、高2を選んだ。高校に関しては、進学状況による特徴を探れるような対象校を選定した。

これらの特徴を念頭において調査結果を分析し、この報告書にまとめました。ぜひご一読いただき、今後の調査・研究等にご活用いただければ幸いに存じます。また、調査に関するご意見・ご質問などございましたら、下記までご連絡ください。

〈お問い合わせ先〉

〒206 多摩市落合1-34 ベネッセ教育研究所 担当 川上道子
TEL. 0423-56-0840 / FAX. 0423-56-7302

■ 調査概要

1. 調査テーマ 中学生の学習に関する意識・実態調査
2. 調査方法 学校通しの質問紙による自記式調査
3. 調査時期 1996年5月～6月
4. 調査対象 全国3地域〔大都市（東京23区内）、地方都市（四国の県庁所在地）、郡部（東北地方）〕の中学2年生2,755名
5. 調査項目 学校の授業／家での勉強／勉強の仕方／授業中の様子／学校外学習機会の利用／成績観／勉強観／将来の進学希望／将来つきたい職業／メディアの利用状況など。

※調査テーマ・方法・対象（調査校）・項目は第1回とほぼ同じ。
ただし、調査項目は時代の変化に合わせて多少追加・削除している。

〈有効回収数〉 (人)

	中学2年生			合計
	男子	女子	無答・不明	
大都市（東京23区内）	526	407	4	937
地方都市（四国の県庁所在地）	512	521	2	1035
郡部（東北地方）	394	387	2	783
合計	1432	1315	8	2755